

第4回 甲府市上下水道事業推進会議 会議録

- 会議の名称：第4回 甲府市上下水道事業推進会議
- 開催日時：令和4年7月28日（木）午後3時00～午後4時30分
- 開催場所：甲府市上下水道局 3階大会議室
- 出席委員：風間ふたば委員、落合圭子委員、中澤謙一郎委員、
石平 博委員、大久保一雄委員
- 欠席委員：野村千佳子委員、小沢忠雄委員

- 次第
 - 1 開 会
 - 2 報告事項
 - 3 議 事
 - (1) 甲府市上下水道事業経営戦略「第4次戦略推進計画」の最終評価について
 - (2) 令和4年度甲府市上下水道事業「お客様満足度調査」について
 - (3) その他
 - 4 事務連絡
 - 5 閉 会

■ 議事

- (1) 甲府市上下水道事業経営戦略「第4次戦略推進計画」の最終評価について

【会長】

次第3の議事に移らせていただきます。議事(1)は、「第4次戦略推進計画の最終評価について」になります。前回の第3回会議は、書面開催にて第5次戦略推進計画(案)についてご了解いただきました。今回は、第4次の最終評価ということで、令和3年度の各事業における進捗状況等について委員の皆さまからご意見等をいただくこととなりますので、よろしく願いいたします。それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

【会長】

「第4次戦略推進計画の最終評価について」説明が終わりました。

水道事業は5つの施策、下水道事業は4つの施策のもと多くの事業を行っておりますが、「B評価」については概ね順調に進捗しており、「C評価」は進捗

に遅れなどがあり、改善の必要がある事業になると思われます。

「C評価」であった施策は、水道事業の「水源保全の推進」のみであり、その他の施策においては、すべて「B評価」という評価になっております。これを踏まえて受けて皆さま、ご質問、意見等ありますか。

【会長】

下水道事業における有収率の算定方法の変更について、もう少し詳しく説明をお願いします。

【事務局】

返流水の扱いを令和2年度から変更したことが影響しております。これは、返流水の影響のない放流口に放流流量計を設置し、河川に放流している流量から汚水処理水量を把握することで、有収率を算出することとしたものです。

【会長】

そうすると、今までの算出方法よりも有収率が上がることになるのですね。

【事務局】

令和2年度までの算出方法による令和3年度の有収率は、58.96%であり、令和2年度の有収率55.48%を上回っております。浸入水対策などにより、3.48%向上しておりますが、放流流量を把握することで66.53%と大きく向上したものであり、より正確な有収率が算出できるようになったと考えております。

【会長】

別の言い方をすると、有収率が100%でないということは、半分弱くらいは下水道使用料を払っていただかない処理水、例えば、地下水といった家庭から出た排水ではない分が処理場に入り込んでいるということですね。

【事務局】

それにつきましては、計画的に浸入水の原因特定調査を行っており、マンホールからの雨水浸入や誤接続について、地域を定めて調査し、原因を特定して対策を行うことで、有収率が向上していくものと考えております。

【会長】

誤接続については、下水道事業の「浸入水防止対策（誤接続）」において、未接続家屋を対象に訪問指導を行った件数が120件、その結果、誤接続の解消に繋がった件数が3件となっておりますが、説明のあった原因特定調査の結果に基づいて解消に努めているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

原因特定調査により判明した家屋を対象に訪問指導を行っているところですが、それぞれの誤接続家屋ごとに事情などが異なりますことから、地道な訪問指導等により、誤接続の解消に努めているところであります。

【会長】

このように、目標値と実績値に基づき上下水道局が自己評価しているところですが、委員の皆さまいかがでしょうか。

【委員】

水道事業、下水道事業共通の事業であるオンライン研修の効果ですが、オンライン研修は大変有効な手段であるとは思いますが、オンライン研修では出来ないこともあると思われます。オンラインでは出来ないことにも力を注ぐこともできるのではという感想を持ちました。

また、エネルギーの関係で中間時の見込みを上回ったとのことですが、何か特別なことをされたのか、説明をお願いします。

【事務局】

エネルギーの関係は、太陽光の発電量が多かったというのが要因であります。太陽光発電の増設などではなく、自然環境的な要因によるものであります。

【委員】

下水道の処理場システム高度化事業ですが、事業完了ということで良かったとは思いますが、電子化した後の維持、運用が大変だと思っております。今後の展開に記載されているように、「アセットマネジメントシステムの運用等」に引き継いだ後の運用をしっかり行ってほしいと思います。

【事務局】

システム高度化事業で電子化は、過去の紙ベースで残っている図面などの完成図書を電子化したものであります。今後は、別事業の「アセットマネジメントシステムの運用等」のシステムに引き継いで運用していきます。

【会長】

この電子化は、具体的にどのような場面において有効なのでしょうか。

【事務局】

わかりやすく言いますと、お医者さんが使っている電子カルテに近いもので、作った時期や修理履歴などの情報を蓄え、今後の危険度を計るといったことが出来るようになるシステムであります。

【会長】

これは、水道事業においても同様でしょうか。先日あった漏水事故の場合にも電子化されていれば事故原因がはつきりするといったことでしょうか。

【事務局】

先日の漏水事故ですが、耐震化工事を今年度予定していた箇所であり、危険度は認識している箇所でありました。

【会長】

それでは、水道事業においても管の情報など電子化は進んでいるというこ

とですね。

【委員】

鉛製給水管対策事業の評価が「Cプラス」となっています。下水道工事に伴う工事、また新たに宅内給水工事に伴う工事を実施していくとありますが、鉛製の管を単独で替える工事を行っていく考えはないのでしょうか。

【事務局】

鉛管の取替に関しましては、漏水に伴う修繕、また、面的整備とって鉛管の密集度の高いエリアを選定し、本局が布設替えを行っております。鉛管の残存しているエリアは、システム上で把握できておりますので、計画に基づき効率的に布設替えを進めているところです。さらに、今年度より同意を前提に宅内給水工事に伴う布設替えを事業化、いろいろな方策をもって早期解消を目指しているところであります。

【委員】

最近、道路が陥没したというニュースをよく耳にしますが、原因が下水道管の老朽化によるものということを知りました。耐用年数の過ぎた管に亀裂などが入ったことが影響しているというものです。甲府市でも耐用年数の過ぎた古い管があると思いますが、それを把握し事前に工事することはできないのでしょうか。

【事務局】

本市においても、道路陥没は年間10件程度発生しております。原因の多くは、太い管路である本管ではなく取付管という各家庭に繋がる細い管の破損等で発生しており、今のところ被害がでるような大きな陥没は発生しておりません。古い管は存在しておりますので、調査を行い、その調査結果に基づいて管を補強する管更生を計画的に進めております。

【会長】

その下水道管の修繕等は、戦略推進計画においては、どの事業に該当するのでしょうか。

【事務局】

戦略推進計画ですと、「管路施設の調査及び改築事業」であり、ストックマネジメント計画に基づく調査、改築になります。

【会長】

「管路施設の調査及び改築事業」の進捗管理シートにあるように、管路の調査延長、改築延長、また、鉄蓋等改築箇所といった目標値に対して、実績が上回っていることから、事業評価は「B評価」となっています。委員のご意見としましては、「目標値をもう少し頑張ってもらいたい」という意図があるということでしょうか。

【委員】

市民としては、出来るだけ早く調査、改築してほしいと思います。

【会長】

今後の審議にあたり、検討していただきたいと思います。

【委員】

長期的な観点から、水源林の整備が重要であると感じています。第4次戦略推進計画における「水源の森整備事業」の最終評価は、色々な働きかけを行ったものの効果が無かったということです。実際にどのような働きかけを行ってきたのか教えていただきたいと思います。また、効果がないのであれば、今後、どのような形で改善していくのか教えていただきたいと思います。

【事務局】

「こうふ水源の森整備事業」は、補助金交付額、民有林整備面積ともに実績がありませんでした。これは、水道水源保護地域内の民有林の水源かん養機能向上を図ることを目的とした整備促進の事業であり、林政課を通じて森林組合等へ水道水源保護地域内での森林整備の依頼を行いましたが、同地域内での施業がなかったというものです。

今後におきましては、民有林所有者が整備できない場合に市及び森林組合等が代わって整備する森林環境譲与税を活用した森林経営管理制度の利用状況を勘案する中で、森林整備事業補助金交付制度の在り方等についても検討してまいりたいと考えております。

【会長】

「こうふ水源の森整備事業」は、第5次戦略推進計画においては、どのような内容になっていたか確認させてください。

【事務局】

第5次戦略推進計画におきましては、森林環境譲与税を活用し、新たな制度として市がスタートさせた森林経営管理制度に伴う民有林の実態調査におけるデータの検証結果を基に、市と連携して本局が民有林を借受け、整備することなどの協議検討を行い、効果的な民有林の水源かん養機能の向上を促進していくとしております。

【会長】

第4次戦略推進計画と第5次戦略推進計画では、内容が変わっていることを把握したうえで、今回の第4次の最終評価の審議をさせていただければと思います。

【委員】

水道事業の「再生可能エネルギー利活用事業」における山宮減圧槽施設内への小水力発電の取り組みについて、具体的に説明をお願いします。

【事務局】

山宮減圧槽施設内への小水力発電は、平瀬浄水場からの送水には落差があるため、その落差の水圧を利用して羽根車を回し発電する施設であります。また、この施設は上下水道局ではなく東京発電が運営している施設になります。

【委員】

再生可能エネルギーを活用した施設は、現状、この施設のみですか。

【事務局】

山宮の小水力発電以外に、浄化センターにおいて検討した経緯はあります。浄化センターは、平らな地形であることから流速的にも厳しく採算がとれないことから断念した経緯があります。

【委員】

災害等の緊急時に活用できる再生可能エネルギーが他にもあれば良いと思います。

【事務局】

補足させていただきますと、現状では山宮の小水力発電のみですが、水道の施設においては、平瀬浄水場から配水されるルートが他にもあります。現在、他のルートでも発電できないか検討を進めているところでもあります。山宮の発電量には届きませんが、その6～7割程度の発電が可能ではないかと調査を進めているところです。また、下水道施設におきましても、浄化センターの汚泥を活用したバイオマス発電などの可能性があります。甲府市のみの汚泥量では採算をとることが難しい状況であります。今後、山梨県を中心に広域化の検討を進めておりますので、その検討の中で汚泥の集約ができてくると、消化ガス発電というのも可能性は出てくると考えております。

【会長】

メタンガスということですね。人が排出するものの中には、栄養もたくさんありますので、それをメタン発酵させて取り出せばエネルギーになります。甲府市のみでは採算が取れないが、他市の汚泥を集めて処理すれば採算が取れ、その計画があるということですかね。第5次戦略推進計画の中にバイオマス発電のことは入っていましたか。

【事務局】

具体的にバイオマス発電のことは記載されておりませんが、新たな事業として、「広域化・共同化の推進」を取組項目としております。

【会長】

最近、世界情勢からガソリンなどのエネルギーが高騰しており、自らエネルギーを確保しなければならないとなると、これを意識した評価をしていただければと思います。

本日の会議は、第4次戦略推進計画の最終評価を承認するかですが、上下水道局の自己評価の内容が妥当であると考えていただければ承認ということでまとめさせていただきたいと思います。目標値が甘ければ実績は良くなりますので、そのような意見がございましたら、この推進会議において審議すべきだと思いますので、次回の会議以降におきましても、そのような目でみていただければと思います。それでは、「第4次戦略推進計画の最終評価」つきましては、上下水道局の自己評価の内容で承認ということによろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【会長】

それでは、他に意見はないようですので、「第4次戦略推進計画の最終評価」については、承認としたいと思います。

(2) 令和4年度甲府市上下水道事業「お客様満足度調査」について

【会長】

それでは、次の議事(2) 令和4年度甲府市上下水道事業「お客様満足度調査」に移ります。事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

【会長】

令和4年度甲府市上下水道事業「お客様満足度調査」について、説明が終わりました。ただ今の説明を受けて皆さま、ご質問、意見等ありますか。

【委員】

「甲府の水」のプレゼントは良いアイデアだと思うので、これにより回収率がどのくらい上がるのか楽しみにしたいと思います。全体的に誘導する工夫などがされており良いのではと思いました。

1点、2-18に追加された「広域化による基盤強化」につきましては、具体的にイメージしにくいと感じました。

【委員】

1,500人に送付したとのことですが、現時点において、どの程度の回収率でしょうか。

【事務局】

昨日、7月27日現在で490件が返送されております。

【委員】

令和元年度の実績より少ないかもしれないですね。

【事務局】

7月29日の消印有効ですので、実績はもう少し伸びると考えております。

【委員】

2-18に追加された「広域化による基盤強化」が、どの程度理解していただけかと感じました。重要だとは思いますが、他と比べるとイメージしにくいため、調査結果をみて表現などは変えていく必要があると思いました。

料金については、聞き方が重要とっておりますが、今回の調査の聞き方は繋がりがあり、回収後の分析において、前回までの聞き方とどのように変わるか分析するのも良いと思いました。

【委員】

調査項目が多いという印象を受けました。お客様の満足度を知りたいというの分かるのですが、答える側に立つと面倒という印象です。また、「甲府の水」プレゼントも20名でなく、もう少し多ければ回答率も増えるかと思いました。

【会長】

今回のアンケートは、調査項目は増えたかもしれませんが、アンケートに答えてもらえると、少しは上下水道事業のことが分かってもらえるような内容になっていると思います。「甲府の水」のプレゼント数も検討いただければと思います。他に意見等ありますか。

【委員】

今回の調査は紙で行っていますが、スマートフォンでの調査など検討されたでしょうか。

【事務局】

今後におきましては、紙の調査票と電子の併用で出来たらと考えております。

【委員】

世代によって利用する媒体は異なることから、回収率にも効果があると思いますので検討してほしいと思います。

【会長】

他に意見はないようですので、令和4年度甲府市上下水道事業「お客様満足度調査」については、承認としたいと思います。これで次第の3「議事」を閉じさせていただきます。

以上